

藥事法案特別委員會議事速記錄第一號

昭和十八年二月二日(火曜日)午前十時七分開會

○委員長(男爵高木喜寬君) 是ヨリ開會致シマス、藥事法案カラ御願ヒ致シマス

○政府委員(難尾弘吉君) 藥事法案提出ノ趣旨ニ付キマシテハ、過日本會議及日本委員會ニ於キマシテ、大臣ヨリ御説明申上ゲマシタ通りデゴザイマスガ、私ヨリ法案ノ内容ニ付キマシテ、逐條ノ概略ノ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、其ノ前ニ御諒承願ッテ置キタイト思ヒマスコトハ、此ノ法律案ハ現在藥事關係ノ制度トシテ行ハレテ居リマスル藥劑師法、藥品營業並ニ藥品取扱規則及ビ賣藥法、斯様ナ制度ヲ統合整理致シマシテ、更ニ本案提出ノ根本趣旨ヲ貫キマス爲ニ必要ナル諸規定ヲ定メマシタ次第デアリマス、尙又現在ノ制度ハ相當古イ制度トナッテ居リマスルノ其ノ間諸規定ノ中ニハ今日行ハレテ居リマスル多クノ立法令ノ體裁ト其ノ趣キヲ異ニシテ居ルモノモゴザイマスノデ、ソレ等ニ付キマシテモ大體近頃ノ立法令ニ倣ヒマシテ、規定ノ體裁ヲ整へ、又現在法律中ニ規定ノアリマスル事項ニ付キマシテモ、命令ニ讓ルヲ適當ト認メルヤウナモノニ付キマシテハ命令ニ讓ルヤウニ致シテ置クノデアリマス、殊ニ此ノ法律案ト、申サバ姉妹編ト申シマスカ、極メテ密接ヲ關聯ノアリマスル最近ノ制定ニ係ハリマスル國民醫療法ノ規定ト大體歩調ヲ揃ヘルト云フヤウナコトモ致シタノデアリマス、豫メ御含ミヲ願ヒタイト思ヒマ

ス、以下條文ニ付キマシテ御説明申上ゲタイト思ヒマス、第一條ハ本法制定ノ目的ヲ規定致シタモノデアリマシテ、此ノ法律ハ國民醫療法ト密接ノ關係ニ立チ、是ト相並ンデ國民保健ニ關スル基礎法タルベキモノト考ヘマシテ、國民醫療法ガ國民醫療ノ面ヲ規定スルニ對シ、此ノ法律案デハ藥劑衛生ノ部面ヲ規定致シテ居ルノデアリマスケレドモ、等シク國民體力ノ向上ヲ圖ルト云フコトヲ根本ノ目的トシテ居ルト云フ點ヲ明カニ致シタノデアリマス、次ハ第二章ノ藥劑師ニ關スル規定デアリマスルガ、第二條ハ新タニ設ケマシタ規定デゴザイマシテ、藥劑師ノ本分ヲ規定致シタモノデゴザイマス、現行法ノ藥劑師法第一條ニハ「藥劑師トハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲ス者ヲ謂フ」藥劑師ハ藥品ノ製造販賣ヲ爲スコトヲ得ト云フヤウナ規定ガアルノデゴザイマス、從ヒマシテ藥劑師ノ本來ノ職分ハ專ラ調劑ノミニ存スルカノ如キ觀念ガ世上ニ行ハレテ居ル嫌ナシトシナイノデアリマス、併シテナガラ今日藥劑師ノ職分ハ、獨リ調劑ノミナラズ、廣ク醫藥品ノ供給、或ハ食物ノ検査ト云フ風ナ衛生科學ノ部面、更ニ又近頃デハ毒瓦斯ノ試驗研究トカ、或ハソレ等ノ處理ト云フヤウナ部面ニ互リマシテ、所謂科學者トシテ國民保健ノ廣汎ナル分野ヲ擔當スルニ至ッテ居ルノデアリマス、此ノ實情ニ即シマシテ是等ノ廣イ範圍ノ部面ヲ擔當スルモノデアルト云フコトヲ明カニ致シタ次第デアリマス、即チ藥劑師ハ

國民保健ノ一ツノ大キナ分野ヲ擔當致シマシテ、醫師、齒科醫師等ト相携ヘテ國民體力ノ保全増強ニ寄與スルト云フ國家的ナ任務ヲ負フモノデアルト云フコトヲ明カニ致シマシテ、其ノ職責ノ極メテ重イト云フコトヲ自覺セシメ、益、勵精其ノ職域ニ於テ奉公セムコトヲ期待致シマシタ次第デアリマス、第三條ハ藥劑師免許ヲ受ケル資格ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ規定スルコトト致シタノデアリマス、此ノ勅令ニ定メマ

スル事項ハ大體現行法通りト致ス考デアリマスノデ、多ク御説明申上ゲル必要ハナイト存ズルノデアリマス、第四條ハ藥劑師免許ニ關シマシテ、申セバ絕對ナル缺格條件ヲ規定シタモノト申スコトガ出來ルト思フノデアリマス、字句ヲ多少修正致シマシタ外、現行法ノ藥劑師法第三條ノ通りデアリマスノデ、是モ說明ヲ省略致シマス、第五條ハ藥劑師ノ謂ハバ總體的ナ缺格條件ヲ規定シタノデゴザイマシテ、是モ字句ヲ若干修正致シマシタ外ハ現行法通りデゴザイマスノデ、是モ說明ヲ省略致シマス、第六條ハ藥劑師ノ名簿ニ付テ新タナル條項ヲ設ケタノデアリマスガ、是ハ現在ノ法律ニ依リマスト云フト、藥劑師ノ名簿ニ登錄スルト云フコトガ藥劑師ノ資格ヲ付與スル一ツノ要件トナッテ居ルノデアリマスガ、事柄ノ性質上區分シテ規定スルノガ適當ト考ヘマシテ、第三條ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ、第六條ノ登錄ニ關スル規定ヲ設ケマシタノデアリマス、登錄スベキ事項等ニ付キマシ

テハ現行法通りト致シタノデアリマス、第七條ハ藥劑師ノ免許ノ取消又ハ業務ノ停止處分ニ關スル規定デアリマシテ、大體現行法ヲ踏襲致シテ居ルノデアリマスルガ、特ニ變ッテ居ル點ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ藥劑師タルノ品位ヲ損ズル行爲ヲ免許ノ取消又ハ業務停止處分ノ事由ノ中ニ加ヘタノデアリマス、ソレカラ免許ノ取消又ハ業務ノ停止處分ノ事由タル事實ガ免許ノ前ニアツタコトデアリマシタ場合ニ於テモ免許ノ取消又ハ業務停止處分ヲスルコトガ出來ルト云フ風ニ致シタノデアリマス、ソレカラ免許取消處分ヲ受ケマシタモノガ再免許ヲ受ケタ者デアリマシテ、再免許ヲ受ケタル者ガ主務大臣ノ定ムル期間内ニ於テ一定ノ刑罰ニ處セラレマシタ時ハ、其ノ再免許ハ當然效力ヲ失フコトト致シタノデアリマス、尙又藥劑師ニ對スル行政處分ヲ致ス場合ニ於キマシテ、從來ハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトトナッテ居ッタノデアリマスガ、此ノ法案ニ於キマシテハ中央衛生會ノ審議ヲ要スルト云フコトヲ削除致シタノデアリマス、國民保健ニ關スル藥劑師ノ職責ガ益、重キヲ加ヘ、醫師、齒科醫師ト相携ヘテ挺身其ノ職域ニ御奉公スルコトヲ期待セラレテ居リマスル今日、藥劑師ニ關スル道義ノ振作昂揚ト云フコトハ夙ニ世人ノ提唱スル所デアリマシテ、醫師、齒科醫師何レモソレゾレ其ノ品位ノ向上ニ努メナケレバナリマセスコトハ當然デアリマスルガ、藥劑師ハ又藥劑師トシテノ品位ヲ保ッテ行カナケレバナラスト思フノデアリマス、本條ニ於キマシテハ過般制定セラレマシタ國民醫



療法ト同様ニ藥劑師ノ品位ヲ損ズル行爲ガアリマシタ時ニ行政處分ヲ行ヒ得ルコトト致シタノデアリマス、ソレカラ藥劑師ノ職分ノ重イノニ鑑ミマシテ免許ノ取消又ハ業務停止ノ事由タル事實ガ免許前ニアツタ場合ニ於キマシテモ相當ノ處分ヲ爲スベキコトハ、其ノ事實ガ免許後ニ拘ラズ取消又ハ停止ヲ爲スコトガ出來ル、是亦國民醫藥法ト歩調ヲ合セテ居ル譯デアリマス、ソレカラ犯罪又ハ不正ノ行爲ガアリマシタ爲ニ藥劑師免許ヲ取消サレタ者デモ改悛ノ情顯著ナル時ハ、現行法ニ於キマシテハ一律ニ再免許ヲ與ヘルト云フコトニナツテ居リマスガ、改悛ノ情ガ顯著デアルカドウカト云フコトハナカク、其ノ認定ノ困難ト場合ガ尠クナイノデアリマスノデ、情狀ニ依リマシテハ一定ノ條件ヲ附ケル等、一定ノ制限ノ下ニ再免許ヲ與ヘルコトガ却テ適當デハナイカト云フ風ニモ考ヘラレマスルノデ、本條ニ於テハ條件附再免許ノ規定ヲ設ケマシタ次第デアリマス、次ニ中央衛生會ノ審議ヲ省略スルト云フ風ニ致シタノデアリマスルガ、藥劑師ニ對スル行政處分ヲ行ヒマスル場合ニハ、常ニ地方長官ノ意見ノ具申ヲ求メ、地方長官ハ又道府縣藥劑師會ノ意見ヲ徵スル等ソレモ、慎重ナル手續ヲ取ツテ居ルコトデアリマスノデ、更ニ其ノ上ニ中央衛生會ノ諮問ヲ經ル必要ハナイコトト考ヘル、若シ左様ニ致シマスレバ却テ行政處分ノ時宜ヲ失スルト云フ風ノコトモゴザイマスルノデ、國民醫藥法ノ改正ノ趣旨ト同様ニ、本法案ニ於キマシテモ中央衛生會ノ議ニ付スルコトヲ止メルコトニ致シタノデアリマス、ソレカラ第八條ハ、是ハ新シイ規定デアリマスガ、藥劑師ニ對シ主務大臣

ニ於テ補習教育ノ義務ヲ課シ得ルコトヲ規定シタノデアリマス、ト申シマスルノハ、先程來申シマスル如ク、藥劑師ガ國民保健上廣範圍ニシテ且重大ナル職責ヲ荷ヒ、又ハ其ノ職分ガ人ノ健康、生命ニ關係スルコトガ多イモノデアリマスルノデ、常ニ藥劑師タルモノハ其ノ自己ノ職分ニ付テ勉強ヲ怠ラナイヤウニシテ貫ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、醫藥ノコトハ日進月歩デアリマスルノミナラズ、國防科學ニ關スル事項ノ如キハマダ十分ニ研究モ遂ゲラレテ居リマセヌノデ、斯様ナ規定ヲ設ケマシテ藥劑師ノ職域奉公ノ一層完備ヲ期スルヤウニ致シタ次第デアリマス、第三章ハ藥劑師會ニ關スル規定デゴザイマス、藥劑師會ニ關シマシテハ從來藥劑師會令ト云フモノガゴザイマシテ、ソレモ規定ヲ設ケラレテ居ル次第デアリマス、大體ニ於テ從來ノ規定ヲ踏襲スル考デゴザイマスルガ、第九條ニ書イテアリマスル如ク、從來ノ藥劑師會ノ目的ニ多少ノ修正ヲ加ヘマシテ、實體ニ於テハ、根本精神ニ於テハ差異ハナイト考ヘマスケレドモ、此ノ法律ニ於キマシテハ「日本藥劑師會及道府縣藥劑師會ハ藥事衛生ノ改良發達ヲ圖リ國民體力ノ向上ニ關スル國策ニ協力スルヲ以テ目的トス」即チ從來ノ規定ニ較ベマスレバ「國民體力ノ向上ニ關スル國策ニ協力スルヲ以テ目的トス」ト云フコトヲ新タニ附加ヘマシテ、現下ノ時局ニ於ケル藥劑師會ノ使命ヲ明カニ致シタノデアリマス、其ノ外ノ點ニ付キマシテハ大體現行法通りデアリマスルガ、唯今回ノ藥劑師會ノ規定ニ於キマシテハ、會員ノ範圍ヲ從來ヨリモ擴大致ス積リデ居ルノデゴザイマス、即チ從來ハ開局ノ藥劑師ニ從事スル

藥劑師、或ハ又藥品ノ營業ニ從事スル藥劑師ハ、藥劑師會ノ會員トナツテ居タノデアリマス、今度ノ改正ニ於キマシテハ、其ノ範圍ヲ擴大致シマシテ、獨リ左様ナ營業ニ從事スル藥劑師ノミナラズ、苟クモ藥劑師ノ資格アル者ニ付テハ之ヲ會員ト致シタイ考ヘデアリマス、ソレカラ又現ニ藥劑師ノ免許ヲ持ツテ居リマセヌデモ、藥劑師免許ヲ受ケル資格ヲ有スル者ハ之ヲ道府縣藥劑師會ノ會員トラシメルコトヲ得ルト云フ途ヲ開キマシテ、即チ藥劑師乃至ハ藥劑師同様ノ資格ヲ持ツテ居リマスル、有ラユル分野ノ人達ガ寄ツテカッテ、藥劑師會ヲ組織シテソレノ職分ヲ發揮致シマシテ、公共ノ爲ニ盡スト云フ體制ヲ取ルコトト致シタノデアリマス、ソレカラ從來ハ日本藥劑師會ハ任意設立デアッタノデアリマスルガ、藥劑師會ノ使命ノ重大性ニ鑑ミマシテ、中央ニ強力ナル藥劑師會ヲ設立スル必要ガアルト考ヘマシテ、第十一條ニ規定致シテアリマスル如ク、日本藥劑師會ヲ設立ヲ強制設立ト致シタノデアリマス、其ノ外ノ點ハ特ニ申上ゲル必要モナイカト存ジマス、ソレカラ次ハ第四章ノ藥局及調劑ニ關スル事項デゴザイマス、第十四條ニ「藥局ヲ開設セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クベシ」、斯様ニ規定ヲ致シテ居リマス、從來ノ規定ニ依リマスレバ藥局ノ開設ハ地方長官ノ届出ヲ以テ足レリト致シテ居ッタノデアリマスルガ、此ノ法律案ニ於キマシテハ許可ヲ受ケルコトト致シタノデアリマス、ノミナラズ從來ノ規定ニ依リマスレバ、藥局ノ開設者ハ原則トシテ藥劑師ニ限ラレテ居ッタノデアリマス、多少ノ例外ハゴザイマスルガ原則トシテ藥劑師ニ限ラレ

テ居ッタノデゴザイマスルガ、此ノ法律案ニ於キマシテハ藥劑師ニ限定シナイコトニ致シタノデアリマス、藥局ハ藥事衛生ニ關シマシテ、一般民衆ノ利用ニ供セラレル重要ナ機關デゴザイマスノデ、其ノ設備管理等ニ付キ適正ヲ期スル必要ガアリマスルコトハ申ス迄モナク、又其ノ分布ノ狀況ハ從來ドチラカト云ヘバ、都市偏在ノ傾向ガ誠ニ著シイモノガアルノデアリマス、例ヘバ六大都市所在附近ノ藥局數ガ、全國藥局數ノ五十三「パーセント」ニ達シテ居ルノデアリマス、又東京府大阪府ノ藥局數ハ全國ノ藥局總數ノ三十二「パーセント」ニ達スルト云フヤウナ狀況デゴザイマス、大體ニ於テ大都市ニ藥局ガ集中セラレテ居ルヤウナ傾向ガアルノデゴザイマシテ、其ノ狀態ハ今後ノ問題ト致シマシテ、國民保健上相當考ヘナケレバナラヌ點デアルト考ヘマスルノデ、是ガ是正ヲ圖ルノ方途ヲ期スルコトモ必要デアラウト考ヘルノデアリマス、從ヒマシテ藥局ノ開設ニ付キマシテハ設備其ノ他ノ點ニ付テハ固ヨリ、分布ノ狀況等ヲモ考慮致シマシテ、許可ニ依ルコトニ致シタ次第デアリマス、ソレカラ藥局ノ開設者ニ付キマシテハ先程申シマシタ如ク、原則トシテ藥劑師ニ之ヲ限定シ、例外ト致シマシテハ從來公共團體又ハ地方長官ニ於テ、特ニ必要アリト認メテ許可シタ場合ニ限ルコトトナツテ居ルノデアリマスルガ、其ノ結果經營ノ狀態ガ往々ニシテ實情ニ即セズ、極メテ不自然ナルコトヲ餘儀ナクセラレル場合ガアリマスルノミナラズ、右ハ藥局ノ分布ノ適正乃至設備ノ完備ヲ圖リマシテ、其ノ發達ヲ圖ルニ必ズシニモ適當ナヤリ方デハナイト考ヘラレマス、且又其ノ管理ニ付キマ

シテ藥劑師ヲシテ行ハシメルト致シマスル
上ニ於テハ、開設者ヲ必ズシモ藥劑師ニ限
定スル保險衛生上ノ必要モノナト考ヘラレ
マスルノデ、今回ノ改正ニ於キマシテハ開
設者ヲ藥劑師ニ限定致サナイコトニ致シタ
次第デゴザイマス、第十五條ハ現行法通り
デゴザイマス、ソレカラ第十六條ハ大體現
行法ノ通りデアリマスルガ、之ニ但書ヲ附
ケマシテ「命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル
場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フ規定ヲ設ケタ
ノデアリマス、此ノ趣旨ハ調劑ハ特定ノ人
ノ特定ノ疾病ニ對スル治療藥劑ヲ製造スル
者デアリマシテ、毒藥ノ如キ微量ナル過チ
ニ依リマシテ人命ヲ奪フ者モアル次第デゴ
ザイマスノデ、相當完備シタ設備ノ下ニ調
劑ヲナサナケレバナラヌト云フコトハ申ス
迄モノナイコトデアリマスルカラシテ、現行法
通り原則ト致シマシテハ、藥局ニ於テ調劑ヲ
スベキコトヲ規定致シタノデアリマスルガ、
併ナガラ藥劑師ノ調劑ヲ、藥局以外ノ場所
ニ於テナスコトヲ從來禁止致シテ居リマシタ
結果、例ヘテ申シマスルト病院、診療所等
ニ於テ調劑ニ從事スル藥劑師ガ、一體此ノ
規定ニ或ハ抵觸スルノデハナイカト云フ風
ナ疑モゴザイマシタシ、又公ケノ必要上例ヘ
バ巡廻診療等ト云フヤウナモノヲ、行ヒマスル
ト、藥劑師ノ調劑ト云フコトガ出來ナイト
云フコトニナリマスルノデ、特定ノ場合ヲ限
リマシテハ、藥局外ニ於テ調劑ヲスルコトヲ
認メルノガ實情ニ適スルト考ヘマシテ、斯
様ニ致シタノデゴザイマス、第十七條ハ大
體現行法ノ通りデゴザイマス、ソレカラ第
十八條モ多少ノ整理ハゴザイマスルガ、趣
旨ニ於テハ現行法ノ通りデゴザイマス、第
十九條ハ、是モ大體現行法ノ通りデアリマ

スルガ、調劑録ノ備付ノ義務デアリマス
カ、或ハ其ノ保存義務ニ關スルヤウナ規定
ハ、是ハ命令ニ讓ルコトト致シマシタ、
ソレカラ第二十條、是ハ新シク設ケマシタ規
定デゴザイマス、調劑報酬ニ付キ主務大臣
ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得ト云フヤ
ウニ致シタノデゴザイマス、醫療費ノ適正
ヲ期シマスルコトハ、國民保健上最モ肝要
ノコトト存ズルノデアリマス、醫師ノ受ク
ベキ醫療報酬ニ付キマシテハ、曩ニ制定セ
ラレマシタ國民醫療法ニ於テ、主務大臣ガ
必要ヲ措置ヲ爲シ得ル途ヲ開キ、其ノ適正
ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、醫療費
ノ一部タルベキ調劑報酬ニ關シマシテモ、
從來區々ニ互リ、又ハ適正ヲ缺クモノガナ
キニシモアラズトス様ニ考ヘラレマスルノ
デ、之ヲ適正ナラシメタル爲ニ、主務大臣ニ
於テ必要ヲ措置ヲ講ジ得ルコトト致シタノ
デアリマス、次ニ第二十一條デアリマス、
之ニ付キマシテハ現行法ニハ、法律ニ於テ色
色ノ規定ガアルノデゴザイマシタ、大體同様
ナ趣旨ヲ規定スル積リデハゴザイマスルガ、
事柄ガ細目ニ互リマスルノデ、之ヲ命令ニ
讓ルコトニ致シタノデアリマス、例ヘバ藥
品ヲ省略シテハイケナイ、調劑ノ場合ニ、
醫師、齒科醫師ノ規定致シマシタ藥品ヲ省
略シテハナラナイ、或ハ又代リノ藥ヲ使ッテ
ハナラナイ、又藥劑ノ容器又ハ包紙ニ諸般
ノ事項ヲ記入シナケレバナラヌ、毒藥、劇
藥ヲ配合致シテ居リマス處方箋ノ保存義務
ト云フヤウナ色々ノ細カキ規定ガゴザイマ
スルガ、是等ハ總テ命令ニ讓ルコトト致シ
タノデゴザイマス、次ハ第五章ノ醫藥品デ
アリマス、第二十二條ハ醫藥品ノ製造ニ關
スル規定デゴザイマス、茲御説明ヲ申上

ゲテ置キタイト思ヒマスコト也、現在醫藥
品ニハ藥品營業法取扱規則ノ規定ガゴ
ザイマス、又賣藥ニ付キマシテハ賣藥法ノ
規定ガアルノデアリマス、而シテ藥品ノ中、
外國藥局方收載藥品ニ付キマシテハ、藥
品營業法取扱規則ニ規定ガアルノデア
リマス、又何レノ藥局方ニモ記載セザル藥
品又ハ製劑、通常之ヲ新藥新製劑ト申シテ
居リマス、此ノ何レノ藥局方ニモ記載セザ
ル藥品又ハ製劑ニ付キマシテハ、同ジク藥
品營業法取扱規則中ニ規定ガアリマス
ルノ外、明治四十四年ノ內務省令第十八號
ノ規定ガアルノデアリマス、ソレハ「法規
上別個ノ取扱トナツテ居ルノデアリマス、併シ
ナガラ新藥新製劑ト賣藥トノ關係ニ付キマシ
テハ、實際問題トシテ兩者ヲ劃然ト區別ス
ルト云フコトハ、極メテ困難デアリマシテ、
殆ド同種同類ノモノガ、或ハ賣藥トナリ、
或ハ新藥新製劑トナル等、徒ラニ取扱ニ煩
瑣デゴザイマスルノミナラズ、後ニ申上ゲ
マス如ク、新藥新製劑ニ付テモ許可制ヲ採
ルコトト致シマスル以上ハ、賣藥ト新藥新
製劑トノ區別ヲ設ケルト云フコトハ事實ニ
於テハ、殆ド意味ノナイコトトナルノデア
リマス、又外國藥局方ノ新藥新製劑ニ付キ
マシテモ、今後ノ事態ニ於キマシテハ、特
別ノ取扱ヲスル必要ハナイト考ヘル次第デ
アリマス、從ヒマシテ今回ノ立法ニ付キマシ
テハ、是等藥品ノ法制上ノ區別ヲ撤廢致シ
マシテ、等シク之ヲ醫藥品ト致シマシテ、
醫藥品ノ中ニ、日本藥局方ニ收載セザル、
即チ日本藥局方外ノ醫藥品ト云フヤウナ區
分ヲ設ケマシテ、賣藥トカ新藥新製劑ト云
フ區別ハ之ヲ取廢メルコトニ致シタイト考
ヘルノデアリマス、次ニ醫藥品ノ製造ニ關

シマシテハ、現在ノ藥事法令ニ於キマシテ
ハ藥品ト賣藥トニ依ッテ其ノ取扱ヲ異ニ
致シテ居リマス、又藥品ニ付テハ藥劑師ハ
許可等ノ手續ヲ要セズ、自由ニ造レルコト
ニナツテ居リマス、其ノ他ノモノハ地方廳ニ
依リ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケルコトニ致シ
マシタ、而シテ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケテ
製藥者トナリマスレバ、如何ナル藥品モ製
造スルコトヲ得ルノデアリマス、尙又麻藥
又ハ痘苗、血清、或ハ細菌學的治療ト豫防治
療品、又ハ新藥新製劑ノ特殊ノモノニ付テハ
更ニ特別ノ許可、認可等ヲ受ケ、或ハ又屈
出ヲ要スルノデアリマス、次ニ賣藥ニ付テ
ハ賣藥法ニ依ッテ、原則トシテ藥劑師、藥劑
師ヲ使用スル者、或ハ醫師及齒科醫師ト
云フ者ニ限ッテ調劑ノ資格ガアルノデアリ
マス、ソレガ調劑セントスル品目ニ付キマシ
テ地方長官ノ免許ヲ受ケルコトヲ要スル
ノデアリマス、尙又藥事法令ニ依リマス外、
現在ハ國家總動員法ニ基ク企業許可令ニ基
キマシテ、藥品ノ製造業ハ品目毎ニ厚生大
臣ノ許可ヲ要スルコトトナリ、又緊要ナル
品目毎ニ厚生大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要
スルト、斯様ニ致シマシテ、醫藥品ノ製造
ニ關スル手續ハ今日極メテ錯雜複雜、誠ニ
煩瑣ニ堪ヘナイヤウナ狀況ニナツテ居ルノデ
アリマス、併シナガラ醫藥品ノ製造ニ付キ
マシテハ、現在ノ藥事制度ニ於テハ警察取
締ノ見地カラ之ヲ把握シ、或ハ人の部門ニ
ノミ主眼ヲ置キ、或ハ物自體ニノミ主眼ヲ
置キ、人的要素ト物的要素ノ有機的結合體
トシテノ事業ソレ自體、或ハ國ノ全般生産
機構等ノ關係ニ付テ綜合的ニ把握考慮スル

ニ適シテ居リマセヌノデアリマス、就中製造ノ施設、生産品目等ニ付テ餘リ考慮シテ居ラナイヤウナ憾ミガアリマシテ、醫藥品ニ付キ生産性ノ昂揚ヲ圖ルト同時ニ、又計畫的生産ノ遂行ヲ圖リ、醫藥品供給ノ適正ヲ期スルノニハ現状ハ誠ニ不十分デアルト申サナケレバナラスノデアリマス、ソコデ今回ハ現行法令ニ於テ各種ノ免許、許可、認可等ノ手續ヲ、現行法令ニ於ケル各種免許、許可、認可等ノ手續ヲ、現行法令ニ於ケル各種免許、許可、認可等ノ手續ヲ綜合統一一致シマシテ、製造事業自體ヲ許可ニ代ラシメ、且許可ニ當リマシテハ全體ノ生産等ノ關係、製造品目、製造施設等ニ付テ檢討ヲ加ヘ、特ニ日本藥局方外ノ醫藥品ニ付キマシテハ其ノ許否ノ標準ニ付キ相當慎重ナル檢討ヲ加ヘマシテ、醫藥品製造事業ノ適正ナル運行ニ依リ、其ノ供給ノ適正ヲ期スルコトニ遺憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、尙又現行制度ニ於キマシテハ、免許、許可等ノ主體ハ概ネ地方長官デアリマスガ、製造事業ノ許否ニ付キマシテハ全國的視野ニ於テ統一の措置スルノガ適當ト考ヘラレマスノデ、本法案ニ於キマシテハ製造業ハ主務大臣ノ許可ヲ要スルコトト致シタノデアリマス

ゴザイマスシ、又謂ハバ不急不要品ト思ハレルヤウナモノモ少クナイ狀況デアリマス、又名前ガ違フテ居ルモ實際ハ大差無イト云フヤウナ藥モ相當多數ニ上ツテ居リ、徒ラニ煩雜ヲ加ヘ、緊要醫藥品ノ確保ヲ圖リ、其ノ供給ノ適正ヲ期スルニ當リマシテ相當ノ支障ヲナシテ居ルノデアリマス、今回ハ他ノ藥品ト同様ニ新藥、新製劑ニ付キマシテモ總テ之ヲ許可ヲ受ケシメルコトト致シマシタ次第デアリマス、二十二條ノ第一項ニ於キマシテハ、只今申シマシタ如ク、總テノ醫藥品ニ付キマシテ、此ノ製造業ヲ行ハムトスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルト云フコトニ致シタノデアリマス、但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズト云フコトニ致シテアルノデアリマス、此ノ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限リニ在ラズト書イテアルノデアリマスガ、只今考ヘテ居リマスルコトハ、例ヘバ試験研究中ニ屬スル醫藥品ヲ製造致シマスル場合デアリマス、或ハ又藥局開設者ガ其ノ藥局ニ於キマシテ特定ノ醫藥品ヲ製造スル場合ニハ許可ヲ受ケナクテモ宜シイト云フヤウナ規定ヲ置カウカト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ第二項ニハ「醫藥品製造業者ハ醫藥品ノ性状品質ヲ適正ナラシムル爲メ命令ノ定ムル所ニ依リ藥劑師ヲ置クベシ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フ規定ヲ設ケマシテ、醫藥品製造業ニ付キマシテハ、原則トシテ藥劑師ヲ使ハナケレバナラナイト云フ風ニ致シマシタ、之ニ依ツテ醫藥品ノ性状品質ノ適正ヲ期シヨウト云フ考ヘデアリマス、此ノ但書ノ規定ヲ以テ藥劑師ヲ置カナクテモ宜シイト云フ場合デアリマス

ガ、是ハドウ云フ風ナ場合ヲ考ヘテ居ルカト申シマスルコト云フト、例ヘバ醫藥品ノ製造業者自身ガ藥劑師デアリマス場合、或ハ又醫藥品ノ製造ニ付キマシテ必要ナ知識技能ヲ有スト主務大臣ガ認メテ居リマスル場合ニ於キマシテ、ソレ等ノ者ガ自ら製造ニ當ルト云フヤウナ場合ニハ、必ずシモ藥劑師ヲ置ク必要ハ無イト斯様ニ考ヘテ居リマス、又鬪病血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ製造等ニ付キマシテハ、大體從來是ハ醫師ガ其ノ事ニ當ツテ居ルノデアリマス、斯様ナ場合ニ於キマシテモ勿論藥劑師ヲ置ク必要ガ無イノデゴザイマス、醫師ガ其ノ事ニ當ツテ居レバ此ノ除外例ノ適用ガアルト云フ風ニ考ヘテ宜シカラウト考ヘテ居ルノデアリマス、第三項及第四項ニ付キマシテハ、特ニ申上ゲル必要モ無イカト思フノデアリマス、次ハ第二十三條デアリマス、第二十三條ハ醫藥品ノ販賣業ニ關スル規定デゴザイマス、醫藥品ノ販賣ニ關シマシテハ、現在ノ藥事法令ニ於キマシテハ、藥品ト賣藥トニ依リマシテ其ノ取扱ヲ異ニ致シテ居リマス、又藥品ニ付キマシテハ、藥劑師ハ許可等ノ手續ヲ要セズ、其ノ他ノモノハ地方長官ノ藥種商ノ免許鑑札ヲ受クルコトヲ要スルノデアリマス、又賣藥ノ請賣ニ付キマシテハ、藥劑師又ハ藥種商ハ地方長官ニ届出ヲ爲スヲ以テ足ル、其ノ他ノモノハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト致シテ居リマス、尙今日ハ右ノ藥事法令ニ依リマスルモノノ外ニ、企業許可令ニ依ツテ醫藥品販賣業ヲ開始セムトスルモノハ、總テ地方長官ノ許可ヲ受クルコトトナツテ居リマス、斯様ニ醫藥品ノ販賣ニ關スル手續ハ、現在藥品ト賣藥、又藥劑師ト然ラザルモノ

トニ依リマシテ適用法令ガ異ツテ居リマシテ、相當煩雜ニナツテ居ル狀況デゴザイマス、醫藥品ノ適正、圓滑ナル供給ヲ圖リマスニハ、其ノ特殊性ニ鑑ミマシテ、極メテ緊要ナコトデアリマス、之ガ爲メ販賣者ノ資質ノ適否ノミナラス、店舗ノ分布狀況等ヲ十分考慮スル必要ガアルノデアリマスカラ、藥劑師ト然ラザルモノタルト問ハズ、醫藥品販賣業ヲ行フ者ハ齊シク之ノ許可ヲ受クルコトヲ適當ト考ヘマシテ、斯様ナ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、此ノ場合ニ於キマシテモ、二十二條第一項ニ於キマシテ、許可ヲ要セザル場合ノコトヲ豫想致シテ居ルノデアリマス、是ハ例ヘバ醫藥品ノ製造業者、輸入販賣業者又ハ移入販賣業者ガ其ノ製造又ハ移輸入致シマシタル醫藥品ヲ、醫藥品ノ製造業者又ハ販賣業者ニ販賣スルト云フヤウナ場合デアリマス、或ハ又藥局ノ開設者ガ藥局ノ開設ニ際シマシテ、其ノ藥局ニ於キマシテ醫藥品ヲ販賣スルト云フ許可ヲ併セテ受ケマシタヤウナ場合トカ、斯様ナ場合ヲ大體豫想致シテ居リマス次第デアリマス、ソレカラ第二項ニ於キマシテ、「主務大臣ハ藥劑師ニ非ザル醫藥品販賣業者ニシテ藥劑師ヲ使用セザルモノノ取扱目ノ制限ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得」、斯様ナ規定ヲ設ケテ居ルノデアリマス、現在ハ藥劑師ダナケレバ、原則トシテ藥品營業者以外ノモノニ對シ、指定藥品ノ販賣又ハ授與ヲ爲スコトガ出來ナイコトニナツテ居リマス、又賣藥請賣業者ハ藥品ヲ販賣スルコトガ出來ナイモノトナツテ居リマス、此ノ指定藥品ト申シマスルノガ、約百四十二品目及ビ指定藥品ヲ含有スル製劑ニシテ毒藥又ハ劇藥等ニ屬スルモノ

ト云フ風ニナツテ居リマス、是等ノモノハ
藥劑師カ藥劑師ヲ使フモノデナケレバ販賣
ガ出來ナイト云フコトニナツテ居ルノデア
リマス、藥品ハ其ノ性質上、之ガ取扱ニ付
キマシテハ特殊ノ知識經驗ヲ必要トシ、
從テ廣ク醫藥品一般ノ販賣ヲ爲スニ付キマ
シテハ、藥學、藥品ニ關シ専門ノ知識ヲ有
スル藥劑師ヲシテ之ニ當ラシメルコトガ萬
全ノ策デアルト考ヘルノデアリマス、併シ
ナガラ一面ニ於キマシテ、醫藥品ノ消費者
タル國民ノ便益ト云フコトヲ考ヘテ參リマ
スレバ、其ノ販賣業者ハ廣ク適正ニ分布セ
ラレルコトガ必要デアルト云フコトモ亦申
上ゲル迄モナイコトト存ズルノデアリマ
ス、現在ノ狀況ニ於キマシテハ、總テ醫藥
品ノ販賣業者ハ藥劑師デアるか、或ハ又藥
劑師ヲ使用スルモノニ限ルト云フコトハ、
實際問題トシテ頗ル困難ト申サナケレバナ
ラナイノデアリマス、ノミナラズ醫藥品ノ種
類ニ依リマシテハ、必ズシモソレ程高度ノ専門
ノ知識ヲ必要トシナイモノガアルノデアリマ
シテ、藥劑師又ハ藥劑師ヲ使用シナイモノ
ニ對シマシテモ、取扱品目ヲ制限シテ醫藥品
ノ販賣業ヲ行フコトヲ認メルコトガ適當デア
ルト考ヘルノデアリマス、從ヒマシテ醫藥
品中ニ現在ノ指定藥品ノ如ク其ノ性質、作
用、特ニ猛毒又ハ變敗シ易イ爲ニ、其ノ取
扱ニ付キマシテ細心ノ注意ヲ要シ、特ニ藥
學及醫藥品ノ鑑別等ニ關シマシテ、専門的
知識經驗ヲ有スル者ヲシテ取扱ハシメ、其
ノ販賣、又ハ授與ノ際ニ醫藥品ノ良否ヲ確
メ、細心ノ注意ノ下ニ之ヲ交付セシメルコ
トヲ必要トスルモノニ付キマシテハ、從來
ト同様ニ藥劑師、又ハ藥劑師ヲ使用スル販
賣業者ニ限定スルコトト致シマシテ、然ラ

ザル者ニ付キマシテハ、其ノ販賣授與ヲナ
ス者ノ程度ニ應ジマシテ、適當ニ醫藥品ノ
取扱品目ヲ制限致シマシテ、販賣ナサシメルコ
トガ適當ト考ヘルノデアリマス、大體ノ考
ヘ方ト致シマシテハ、只今申シマシタ指定
藥品ニ相當スル物以外ノ藥品ニ付キマシテ
ハ、從來ノ藥種商、之ニ相當スル程度ノ人
達ニ對シマシテハ、一般ニ指定藥品以外ノ
物ハ取扱ハシテ差支ヘナイノデハナイカ
ト、斯様ニ考ヘテ居リマスシ、又從來ノ賣
藥ノ受賣業ヲヤツテ居リマスヤウナ人達ニ
對シマシテハ、矢張り其ノ程度ノ藥ヲ取扱
ハサセルコトニシタナラバ如何デアラウカ
ト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、尙
醫藥品ノ販賣ニ付キマシテハ、現在ノ制度
ニ於ケル賣藥行商ニ關スル事項、毒藥、劇
藥等ノ販賣授與ノ手續等取締ノ徹底、其ノ
他配給ノ適正ヲ期スル爲ニ、細目ノ事項ヲ
規定スル必要ガアルノデアリマスガ、是等
ハ大體現行法ヲ踏襲スル考ヘデゴザイマシ
テ、何レモ命令ニ讓リタイト考ヘテ居ル次
第デアリマス、次ハ第二十四條ノ規定デア
リマス、此ノ規定ハ新タニ設ケマシタ規定
デゴザイマス、醫藥品ハ國民保健ノ上ニ極
メテ重要ナル關係ヲ持ッテ居リマス關係上、
其ノ價格ノ點ニ付キマシテモ、常ニ是ガ適
正ヲ期セナケレバナラヌト云フコトハ申ス
迄モナイコトデアリマス、主務大臣ハ保健
衛生上特ニ必要アリト認メマス重要ナル醫
藥品ノ價格ニ付キマシテ、其ノ公正ヲ圖ル
爲ニ必要ナル命令ヲ發シ、又ハ處分ヲ爲シ
得ルコトト致シタノデアリマス、唯ココデ
御斷リ申シテ置キタイト思ヒマスコトハ、
現在醫藥品ノ價格ニ付キマシテハ、國家總
動員法ニ基ク價格等統制令ノ適用ガアルノ

デゴザイマスガ、差當ッテノ問題ト致シマ
シテハ他ノ物價トノ關係モゴザイマスシ、
價格等統制令ノ規定ノ運用ニ依リテヤツテ參
リタイト考ヘテ居リマスノデ、當分ノ中此
ノ二十四條ノ規定ヲ發動スルト云フ考ヘハ
致シテ居ラナイノデゴザイマス、第二十五
條ノ規定ハ特ニ申上ゲル必要モナイト存ズ
ルノデアリマス、御承知ノ如ク重要ナル
醫藥品ニ付キマシテハ、日本藥局方ト云フ
モノガ制定サレテ居ルノデゴザイマス、是
ハ省令デゴザイマス、從來ノ法令ニ於キマ
シテハ、法律ニ其ノ根據ガナカッタノデゴザイ
マスノデ、茲ニ其ノ規定ヲ設ケマシテ、日
本藥局方ガ此ノ藥事法ニ淵源スルト云フコ
トニ致シタノデゴザイマス、ソレカラ第二
十六條ノ第一項ハ、大體從來ゴザイマス規
定ヲ踏襲致シマシテ茲ニ規定ヲ設ケマシタ
次第デアリマス、日本藥局方ニ收載セル醫
藥品ニ關スル規定、其ノ他ニ第二項ヲ設ケ
マシテ、主務大臣ハ保健衛生上特ニ必要ア
リト認メル醫藥品ニ付キマシテハ、性狀品
質ノ適正ヲ圖ル爲、必要ナル命令ヲ發スル
コトト致シタノデアリマス、此ノ主務大臣
ノ發シ得ル命令デゴザイマスガ、只今考ヘ
テ居リマスル點ハ、保健衛生上特ニ必要ガ
アルト認メマスル醫藥品ニ付キマシテ、特
定ノ機關ノ検査ヲ受ケシメル、或ハ又一定
ノ規格ヲ設ケテ、之ニ從ハシメルト云フ
ヤウナコトヲ此ノ命令デテ規定シタイ
ト、斯様ニ考フ致シテ居ル次第デアリマス、
此ノ第二項ハ新タニ設ケマシタ規定デゴザ
イマス、ソレカラ第二十七條デアリマスガ、
是ハ特ニ新タニ規定ヲ設ケマシタ點ノ主ナ
ル點ヲ申上ゲマスレバ、醫藥品ニ付キマシ
テ内容ノ公示ヲサセヨウト云フ考ヘテ

此ノ規定ガ出來テ居ルノデゴザイマス、現在
此ノ藥品營業、竝ニ藥品取扱規則ニハ單ニ醫
藥品ノ容器、又ハ被包ニ假名、又ハ漢字ヲ
以テ其ノ藥ノ名前ヲ記スコトヲ定メテ居ル
ノデアリマス、日本藥局方ノ收載藥品ニ付
テモ其ノ規定ノ適用ガアルバカリデアリマ
スガ、日本藥局方收載藥品ニ付テハ、其ノ
實質ヲ一目瞭然タラシメ、取扱上差支ノナイ
ヤウニ致シマス共ニ、其ノ純良ヲ保持ス
ル爲ニハ、日本藥局方ナル文字及ビ日本藥
局方名ヲ記載セシメルコトヲ必要ト認メマ
シタノデ、斯様ニ致シタノデアリマスガ、
日本藥局方以外ノ醫藥品ニ付テハ、現在ハ
新藥、新製劑ニ付テ明治四十四年ノ內務省
令第十八號ニ依ッテ見本品ヲ添ヘ其ノ成分
及ビ分量、成分不明ナルモノハ其ノ木質及
ビ製造法ノ要旨ヲ記載セシメルコトトシ、
又賣藥ニ付テハ花柳病豫防法ニ依ッテ、花
柳病ニ關スル賣藥ニ付テ新藥、新製劑ト同
様ノ措置ヲ講ジテ居ルノデアリマス、醫
藥品ノ成分等ヲ公示セシメルコトハ、其ノ
内容ヲ明カナラシメルト共ニ、醫藥品相互ノ
移動關係、或ハ又代用關係ト申シマスガ、
代替關係ヲ明瞭ニ致シマスシ、醫師其ノ他ノ
使用者及ビ取扱業者ヲシテ、醫藥品ノ選擇
ナリ又ハ使用ヲ適正ナラシメマス共ニ、
配給ノ圓滑及ビ品質ノ確保ヲ期スル上ニ於
テ必要ト考ヘラレマスノデ、特別ノ場合ヲ
除キ原則トシテ内容ノ公示ヲ行ハシメルコ
トト致シタノデアリマス、此ノ原則トシテ、
内容ノ公示ヲ致シマシタ例外ト致シマシテ
ハ、命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲シタル場合
ハ、此ノ限ニ在ラズト云フヤウニ致シテ居
ルノデアリマス、大體ニ於キマシテ内容ノ
公示ヲシテ貰フ積リデ居リマスケレドモ、

時ニハ内容ノ公示ヲスルコトニ依ツテ、其ノ醫藥品ガ經驗上非常ニ優秀ナ醫藥品デアリニモ拘ラズ、使フ人ガ之ヲ嫌フト云フヤウナ場合ガ無キニシモアラズト考ヘラレマスノデ、極ク特別ノ場合トシテハ内容ノ公示ヲシナクテモ宜シイ、斯ウ云フ風ニ規定ヲ設ケテ次第デアリマス、尙從來醫藥品ノ小分、是ハ製造致シマシタ醫藥品ヲ適當ノ容器ニ分ケテ、販賣ニ移ス事柄デアリマス、醫藥品ノ小分ニ付キマシテハ現在何等ノ規定ガナイノデアリマシテ、不都合ガ少クアリマセシ、又貯藏ノ方法、其ノ他取扱ニ關シマシテハ、醫藥品ノ特殊性ニ鑑ミマシテ詳細ニ規定ヲスル必要ガアルノデゴザイ、事柄ガ細目ニ互リマスノデ、是等ハ命令ニ讓ルコトニ致シタノデアリマス、次ニ二十八條、廣告制限ニ關スル規定デゴザイマス、現在醫藥品ノ廣告ニ付キマシテハ、賣藥法ニ、賣藥ノ效能ニ關シテハ免許ヲ得タル事項ヲ説明スルノ外、之ヲ誇張シテ公示スルコトヲ得ザルコト、竝ニ一定ノ事項ヲ記載シテハナラナイト云フ旨ノ規定ガアルバカリデアリマス、併シナガラ新藥、新製劑等ノ廣告制限ノ必要ナルコトハ、賣藥ト選ブ所ガナイ實情ニアルノデアリマシテ、醫藥品全般ニ付キマシテ今回ハ廣告制限ノ規定ヲ設ケマシテ、其ノ適正ヲ期スルコトト致シタ次第デアリマス、第二十九條ニ付キマシテハ、格別御説明申上、格別必要モナイカト存ジマス、大體現行法ヲ踏襲シテ規定ヲ致ス積リデアリマス、ソレカラ第六章監督ノ第三十條デアリマス、是モ新タニ設ケマシタ規定デゴザイマス、主務大臣又ハ地方長官ハ保健衛生上特ニ必要アリト認メマス時ニハ、ソレノ業者ニ對シマシテ、當

該業務ニ關シテ、必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得ト云フ規定デゴザイマス、主務大臣或ハ地方長官ガ監督官廳トシテ單ニ力ヲ以テ之ニ臨ムノデナク藥ノ製造販賣、其ノ他各般ノ事項ニ關シマシテ、其ノ適正ヲ期スル爲ニ、指導誘掖ヲ加ヘテ、進歩發達ヲ圖ツテ參リタイト云フ考ノ下ニ、此ノ指示ヲ爲スト云フコトノ權限ヲ規定致シタ次第デアリマス、主トシテ指導誘掖ノ趣旨ニ出タモノデアリマスカラ、罰則ハ件ツテ居リマセヌ、罰則ノナイ規定デアリマスカラ、關係者ノ協力ニ依ツテ、十分其ノ目的ヲ達シ得ルモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、第三十一條ハ字句ヲ若干修正致シマシタ外、現行法ノ通りデアリマス、第三十二條モ大體現行法ニソレノ規定ガアリマスカラ、特ニ申上ゲテ置キタイト思ヒマスカトハ、藥局開設者、醫藥製造業者、輸入販賣業者、移入販賣業者、若シクハ販賣業者ニ付キマシテ、當該業務ニ必要ナル報告ヲ徴シ得ルコトト致シタ次第デアリマス、從來醫藥品ヲドノ位持ツテ居ルカ、醫藥品ノ所要數量等ニ付キマシテハ、試験調劑法ニ基キ、規則ニ依リマシテ、調劑ヲ行ヒツ、アルノデアリマスカラ、是デハ不十分デアリマスカラ、今回斯様ナ規定ヲ設ケ、命令ヲ以テ適當ナ規定ヲ設ケマシテ、醫藥品ノ數量等ニ付キマシテモ、常ニ之ヲ明カニ致シテ置キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマスカラ、藥劑師ノ向又從來藥局ノ巡視ト申シマスカ、藥劑師ヲ監視員トシテ巡視セシメルト云フ規定モアツタノデアリマスカラ、近頃、デハ藥劑師ヲ監視員ニ頼ンデ、藥局ヲ巡視セシメルト云フヤウナコトハ致シテ居リマセヌ、又今後モ其ノ必要ガナイト考ヘラレマスカラ、

藥劑師ヲ監視員トスルト云フヤウナ規定ハ、此ノ際削除スルコトニ致シタノデアリマス、第三十三條ハ業者ガ其ノ業務ニ關シマシテ、犯罪又ハ不正ノ行爲ガアリマシタ場合ニ、許可ヲ取消シ、業務ヲ停止シ、又ハ藥局開設者、醫藥品販賣業者ノ業務ニ關シマシテ、犯罪又ハ不正ノ行爲ノアリマシタ時ノ許可ノ取消、業務ノ停止ト云フ規定デアリマス、特ニ御説明申上、ゲルコトモナイト思ヒマス、ソレカラ第三十四條、是モ新ナル規定デアリマス、醫藥品ノ製造業、輸入販賣業、移入販賣業、或ハ又藥局開設、ソレカラ醫藥品販賣業ト云フヤウナモノハ、醫藥品ノ供給ニ關シマシテハ、極メテ重要ナル地位ニ立ツモノデアリマシテ、特ニ許可ヲ受ケテ、ソレノ業務ニ従事シテ居ルモノデアリマスカラ、其ノ許可ヲ受ケマシタ以上ハ、ソレノ職域ニ於テ働イテ行カナケレバナラヌト考ヘル次第デアリマス、ソレガ何ト申上ゲマスカ、謂ハバ權利ノ上ニ眼ルト申シマスカ、職責ヲ怠ルト云フヤウナ者ガアリマシテハ、其ノ使命ニ鑑ミマシテ、誠ニ遺憾ト存ジマスノデ、正當ノ事由ナクシテ、其ノ業務ヲ行ハナイト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、許可ヲ取消ガ出來ルト云フ規定ヲ設ケマシテ、勵精其ノ職分ヲ全ウシテ戴キタイト期待シテ居リマスカラ、第三十五條ハ、地方廳ニ對スル職權委任ノ規定デアリマス、特ニ申上、ゲル必要モナイト存ジマス

若干差異ガアツタノデアリマスカラ、是ガ來ル四月一日ヨリ内地ニ編入セラレ、此ノ法律ガ樺太ニ適用セラル、見込ミデアリマスルノデ、ソコ等ノ關係ヲ如何ニ致スカ、勅令ヲ以テ特例ヲ開キ得ルヤウニ致シテ居ル次第デアリマシテ、是ハ大體他ノ一般ノ措置ト配合セマシテ適當ニ善處致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ罰則ノ規定デゴザイマスカラ、此ノ中第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十一條、之ヲ一括シテ趣旨ダケ申上、ゲテ置キタイト思ヒマス、第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十一條ニ於キマシテ、第一ニ麻藥ニ關スル違反ノ行爲ニ付キ刑ヲ加重致シタノデアリマス、ソレハ今後共榮圈内ノ交通ノ頻繁化ヲ豫想セラル、ニ當リマシテ、一層麻藥ニ關スル取締ノ徹底ヲ期シ、民族衛生上遺憾ナカラシムル必要モアルト考ヘマシ、又阿片法トノ權衡モ考慮致シタノデアリマス、ソレカラ醫藥品ノ製造、輸入販賣又ハ移入販賣ハ醫藥品供給ノ根源ヲ爲スモノデアリマスカラ、是ガ適正ヲ圖ルノ必要ガ特ニ切ナルモノガアリマスカラ、之ニ關スルコトニ付テ刑ヲ規定致シタノデアリマス、ソレカラ罰金刑ニ付キマシテハ久シキニ互ル時勢ノ推移ニ伴ヒ、貨幣價值ノ變動等モアツテ、カナリ古イ時代ノ法律、殊ニ藥品營業及藥品取締規則ハ議會開設前ノ法律ト云フヤウナ狀況モアリマスカラ、其ノ刑ガ今日ノ場合トシテ餘リニ低キニ失スルト云フコトモ考ヘラレマスカラ、ソレ等ノモノニ付キマシテハ他トノ權衡ヲ考慮致シマシテ之ヲ改正致シタノデアリマス、次ニ第三十八條デアリマスカラ、是ハ當該官吏又ハ其ノ職ニ在リマシタ者ノ秘密ヲ守ル義務ニ

關スル罰則デアリマシテ、從來ハ行政官廳ノ命令ヲ受ケテ公務ヲ行フ者モ此ノ罰則ノ適用ヲ受ケテ居ルノデアリマスルガ、左様ナコトハ今後考ヘラレマセヌノデ、處罰ヲ受クベキ事案ヲ官吏ノ個人ノ秘密ニ限定シタダケガ從來ト變テ居リマス、ソレカラ第四十二條、第四十三條、第四十四條ハ大體一般ノ例ニ從ヒマシタダケデ、特ニ御說明申上ゲル必要モナイト存ジマス、ソレカラ第四十五條、之ニ付テモ申上ゲル必要ハナイト思ヒマス、第四十六條デアリマスガ、藥品營業竝ニ藥品取扱規則、賣藥法、藥劑師法ハ此ノ法律施行ト共ニ廢止セラル、コトニナル譯デアリマスガ、唯藥劑師法中道府縣藥劑師會、日本藥劑師會ニ付テ特別ノ勅令ヲ出スコトニ致シテ居ルノデアリマス、此ノ法律施行ト同時ニ、從來ノ道府縣藥劑師會、日本藥劑師會ガナクナルト云フコトニナリマス、色々支障ヲ生ズル場合ガアリマスノデ、特ニ其ノ間ノ調節ヲ圖リマス爲ニ、特別ナル勅令ヲ出スコトニ致シタノデアリマス、ソレカラ第四十七條、是ハ大體從來アル規定デアリマシテ、醫師、齒科醫師又ハ獸醫師ノ調劑ニ關スル規定デアリマシテ、現在ニ於キマシテハ從前同様ノ規則ニ於テ規定ヲ致シテ居ル次第デアリマス

ソレカラ第四十八條ハ前ノ現在ノ藥劑師法ニ依ッテ藥劑師免許ヲ受ケタルモノハ、此ノ法律ニ依ッテ藥劑師免許ヲ受ケタモノト看做スト云フ規定デアリマス、從ッテ同前ノ規定ト考ヘマス、第四十九條、第五十條、第五十一條何レモ經過ノ規定デアリマシテ、特ニ申上ゲル必要モナイト思ヒマス、ソレカラ第五十二條ハ藥劑師法關係ノ道府縣藥劑

師會及日本藥劑師會ノ權利義務ヲ、此ノ法律ニ依ッテ設立セラルベキ道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハソレノ之ヲ承繼スルト云フ規定ヲ設ケマシタノデアリマシテ、特ニ申上ゲル必要モナイト存ジマス、第五十三條ハ、從來ノ藥局ニ付テノ經過ノ規定デアリマス、ソレカラ第五十四條ハ、是ハ從來ノ、例ヘバ藥種商、或ハ製藥者、或ハ賣藥營業者乃至醫藥請賣業者ト云フヤウナ業者ノ關係ヲ規定致シマシタノデ、其ノ規定ニモアリマス通りニ、現ニ此ノ法律施行ノ際ニ、製造ニ從事シ或ハ販賣ニ從事シテ居リマス業者ハ、其ノ仕事ニ付キマシテハ、其ノ法律ノ施行ノ後ニ於キマシテモ、其ノ法律ニ依ッテ製造ナリ、或ハ販賣ノ許可ヲ受ケタモノト看做サレテ居ルノデアリマシテ、從來同様此ノ仕事ヲ續ケテ參ルコトガ出來ルノデアリマス、ソレカラ第五十五條、是モ大變細イ規定デアリマスガ、醫藥品ノ容器又ハ被包ニ記載スベキ事項ニ付キマシテハ、現ニ有スル醫藥品ニ付テ、直チニ此ノ法律ニ依ッテ措置セシメルコトハ、實情ニモ適シマセヌ、關係業者ニ難ヲ強イルト云フヤウナ結果ニナラナイカト考ヘマスノデ、二箇年程ノ猶豫期間ヲ置キマシテ、此ノ間ハ此ノ法律ニ依ラナイデ宜シイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレカラ第五十六條、之ニ付キマシテモ、特ニ申上ゲル必要ハナイト思ヒマス、舊法ニ依ッテ處罰セラルベキモノハ、矢張舊法ニ依ッテ處罰セラレ、新シイ法律デハヤラナイ、ソレカラ第五十七條、是ハ花柳病豫防法ニ、先程チヨット申上ゲマシタガ、賣藥ノ内容公示ニ關スル規定ガアリマシテ、今回ハコチヲ方ニ取入レマシタノデ削除スルコトニ致シマシ

タ、ソレカラ第五十八條ハ、阿片法中、藥劑師藥種商ト云フヤウナ言葉ガアリマスノヲ、或ハ又製藥者ト云フ言葉ガアリマスガ、是等此ノ法律ト總テ歩調ヲ合セマシテ、醫藥品販賣業者、醫藥品製造業者ニ改メタルコトニ致シタ次第デアリマス、ソレカラ第五十九條ハ、昭和十五年法律第九十二號ト申シマスルノハ、第四條ニ於キマシテ、家畜傳染豫防法、畜牛結核病豫防法、藥劑師法、阿片法及藥品營業竝藥品取扱規則ノ適用ニ付テハ獸醫手ハ之ヲ獸醫師ト見做スト云フ規定ガアリマス、條文ノコチヲガ變リマシタノデ、向フノ法令ノ名前ヲ變ヘマシタ次第デアリマス、大變長イ時間御說明ヲ申上ゲマシテ、恐縮ニ存ジマスガ、一應概略ノ御說明ヲ申上ゲタノデアリマス、尙御質問ガアリマシタラ御答ヘ致シマス

○委員長(馬野高木喜寬君) 藥事法案ノ條文的ノ御說明ガアリマシタカラ、次ニ船員保險法中改正法律案ノ條文ニ付テノ御說明ヲ願ヒマス

○政府委員(平井章君) 船員保險法中改正法律案ノ各條ニ付キマシテ、其ノ趣旨及ビ内容ヲ御說明ヲ申上ゲタイト存ジマス、過日ノ委員會ニ於キマシテ厚生大臣カラ船員保險法中ノ改正法律案ハ大體四點ニ集約出來ルト云フノデ四項目ニ分ケテ說明ガアッタノデアリマスカラ、其ノ四項目ニ分ケマシテ全條文ヲソレノ四項目ニ分ケマシテ關係スル條文ヲ拾ヒ上ゲテ御說明ヲ申上ゲタ方ガ分リ易イノデハナイカト思フノデアリマス、改正ノ第一ノ點ハ船員法ニ依リマス船船所有者ノ扶助又ハ手當ノ義務ヲ廢メマシテ船員保險法ニ依ル保險給付ニ變ヘタ點デアリマス、是ニ關係スル條文ト致シマ

シテハ法律第三十三條ノ削除ノ點デアリマス、從來御承知ノ通り船員ニ對スル病氣ニナリマシタ場合ノ醫療ノ給付、醫療ヲ與ヘタリ、休ミマシタ場合ノ手當ヲ支給スルニハ、船船所有者ニ三箇月間ハ義務ガアッタノデアリマス、所ガ最近船員ノ勞務ガ過重サレテ參リマシテ、傷病モ非常ニ多クナリマシタ、從ッテ船船所有者ノ負擔モ可成リ大キクナリマスノト、ソレニ應ジテ船員ノサウ云ツタ船員法上ノ保護ガ受ケラレナイヤウナ實情ノ場合ガ起ルヤウナ懼レガアリマスノト、今一ツハ現在ノ船員保險法ハ船員法上ノ船船所有者ノ義務ガ終リマシタ後デ給付ヲ爲スコトニナッテ居リマスノデ、船員保險法上ノ給付ヲ致シマス場合ニ於キマシテハ船船所有者ノ義務ガ行レタカドウカト云フ點ヲ確メナケレバ相成リマセヌノデ、事務ガ煩雜ニナル爲ニ迅速ニ給付ヲ致スコトガ出來マセヌ、左様ナ實情ニアリマスノデ、從來ノ船員法ニ依ル船船所有者ノ義務ヲ保險ニ取入レテ、保險法ニ之ヲ行ッテ行クト云フコトニ致ス爲ニ第三十三條ノ削除ト云フコトニ相成ルノデアリマス、次ニ關係致シマスノハ三十二條ノ一項ノ改正デアリマス、從來給付、傷病手當金ハ六箇月ト云フコトニ相成ッテ居リマシタガ、今回三箇月間ノ船船所有者ノ義務ヲ保險ニ取入レラレマシタ關係上、其ノ三箇月ヲ加ヘマシテ九箇月間療養ノ給付、傷病手當金ヲ出スト云フコトニ改マル譯デアリマス、從來ハ船船所有者ガ三箇月間ヤリマシテ、後六箇月間船員保險デヤッテ居リマシタモノヲ船船所有者ノ義務ヲ保險ニ入レマスカラ、從ッテ保險法ノ給付ガ九箇月ト云フコトニ相成ルノデアリマス、但シ現狀ト同

様ニ致ス關係上療養ノ給付ニ付キマシテハ當該疾病、又ハ負傷ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發シ、且是ニ重大ナル過失ガアル場合ニハ、現在ト同ジヤウニ六箇月ニシテ、又傷病手當金ニ付キマシテハ其ノ病氣、怪我ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發シタル時カ、又ハ當該疾病、若シクハ負傷ニ付テ重大ナル過失ガアル時ニハ例外的ニナル譯デアリマス、ソレカラ之ニ關係致シマス條文トシテハ三十條ノ改正デアリマス、傷病手當金ノ支給ノ條件ヲ緩和致シマシテ、被保險者ガ療養ノ爲ニ勞務ニ服スルコトガ出來ナイ場合ハ、其ノ期間標準報酬ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給スルト云フ點、從來ヨリ支給條件ガ緩和サレテ居ルノデアリマス、此ノ點ガ變テ居リマス、ソレカラ次ニ關係ガアリマスノハ附則ノ第三項デアリマス、是ハ此ノ改正法ノ施行前カラ扶助又ハ傷病手當金ヲ受取りマス者ハ從前ノ規定ニ依ルト云フ附則ガ付イテ居リマシテ、ソレ等ノ條文ノ改正ガ一ノ「船員法ニ依ル船舶所有者ノ扶助又ハ手當ヲ保險給付」トスルト云フコトニ關係スル條文ノ改正デアリマス、次ノ第二點ハ「戰時危險區域ヲ航行スル船舶(特定船舶ヲ除ク)」コトニナツテ居リマスガ、サウ云ツタ船舶ニ乗込ム船員ノ被保險者デアリマス、期間ニ一定ノ加算ヲ爲スト云フ點デアリマシテ、之ニ關係致シマス條文ガ二十二條ノ二デアリマス、戰時下ニ於ケル船員ノ稼働狀況ノ過激ナル現狀ニ鑑ミマシテ、其ノ身心ノ疲勞ニ伴フ稼働能率ノ減退ヲ考慮シマシテ、危險區域ヲ航行スル船舶ニ乗込ミマシタ期間ニ對シテ三分ノ一ノ加算ヲスルト云フ規定デアリマス、茲デ「勅令ヲ以テ指定スル區域」トゴザイマスガ、是ハ現在

ノ處成ルベク廣イ範圍ヲ認メタイト考ヘテ居リマス、例ヘバ瀬戸内海ヲ除キマス太平洋、印度洋ト云フヤウニ、廣イ範圍ヲ勅令ヲ以テ指定致シタイト考ヘテ居リマス、此ノ指定ノ仕方ニハ色々戦争地帯或ハ準戦争地帯ト云フヤウニ、色々指定ノ仕方ハゴザイマセウガ、船ハ時々航行シテ居リマス關係モアリマスノデ、事務的ニ不可能デアリマスカラ、左様ナ指定ヲ致シマセンデ、成ルベク廣イ範圍ヲ指定致シテ、其ノ間ヲ主トシテ航行スル船舶ニハ乗船カラ下船迄ノ期間ニ付テ三分ノ一ノ割合ノ加算ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、茲ニ(主務大臣ノ指定スル船舶ヲ除ク)ト斯ウ書イテアリマスノハ、此ノ勅令デ指定致シマスル危險區域ヲ航行致シマス船舶デアリマシテモ、能ク考ヘテ見マスト危險モ左シテ大デハナイシ、又身心ノ疲勞トカ、或ハ稼働狀況ナドガ加重サレテ居ルトモ思ハレナイ船舶ガアルノデアリマス、譬ヘテ申シマスト、日本海方面ノ沿海區域、或ハ沿海該當區域ヲ航行致シマス所ノ短距離ノ定期航路ヲ通リマス所ノ船舶ニ乗込ム船員ハ、假令勅令ヲ以テ指定致シマス危險區域デアリマシテモ加算ヲ認メル必要モナイカト思ハレマスノデ、サウ云ツタ特殊ノ船舶ニ付キマシテハ主務大臣ガ除外スルコトニ相成ル譯デアリマス、加算ヲ認メマス期間ハ附則第二項ニゴザイマセウニ、大東亞戰爭ノ始マリマシタ昭和十六年十二月八日以後デアリマス、終期ニ付キマシテハ今後ノ戦争ノ繼續狀態ニ應ジマシテ決マル譯デアリマスガ、必ズシモ戦争ノ終了ト日ヲ一ニスルトハ考ヘラレナイノデアリマシテ、危險狀態ヲ考慮シテ終期ハ定メル積リデ居リマス、ソレカラ加算ニ

要シマス費用ハ五十八條ニ第一項ヲ加ヘテ居リマスガ、全額國庫ノ負擔ト致シテ居リマス、保險料ハ徵收致シマセズデ、此ノ加算致シマシタモノニ依ル所ノ經費ハ全部國ノ負擔ニ致シテ居リマス、其ノ經費ハ大凡我々ノ計算ニ依リマス、戦争ガ續キマスノガ五年ト致シマス約千五百萬圓、十年ノ續クトスレバ三千二百萬圓モ此ノ加算ノ爲ニ經費ガ要スルト思ハレルノデアリマス、加算ヲ認メマス結果、保險法上ノ給付ガ早ク貰ヘマシタリ、又十五年ニナリマスト貰ヘルコトニナリマスカラ、自然三分ノ一ダケ早く貰ヘルコトニナリマスガ、更ニ又年金ヲ貰ヒマス、一年ニ付テ一定割合ノ年金額ノ増加ガアリマスノデ、サウ云ツタ加算ニ依ル恩典ヲ受ケマス、給付ノ種類ハ、養老年金、廢疾年金、廢疾手當金、死亡手當金デアリマス、所謂長期給付ノモノデアリマシテ、脱退手當金ダケハ除外致シテ居リマス、脱退手當金ハ保險料ノ拂戻ト云フ内容ノモノデアリマスカラ、脱退手當金ダケニ付キマシテハ、三分ノ一ノ加算ハ認メテ居リマセズ、此ノ二十二條ノ二ト五十八條ト、附則ノ第二項トガ改正ノ第二點デアリマス、戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乗込ム被保險者ノ年金等ノ支給條件デアアル被保險者タリシ期間ニ付テ三分ノ一ヲ加算スルト云フ點ニ關係スル條文デアリマス、第三ハ結核ニ對スル延長給付ノ支給條件ヲ緩和スル改正ノ點デアリマスガ、之ニ關係致シマスノハ三十二條ノ第二項デアリマス、從來ノ規定ニ依リマス、被保險者ガ其ノ結核性疾患ニ依ツテ給付ヲ受ケヨウトスル以前ニ、一年間ニ六箇月間繼續シテ被保險者デナケレバナラナカッタ、即チ乗船シテ居

ナケレバナラナイ、被保險者タルノ期間ハ乗船中ノ期間ヲ言ヒマスノデ、具體的ニ言ヒマスレバ……併ナガラ船員ガ病氣ニナリマス前ニ一年間ニ六箇月繼續シテ被保險者デアルト云フヤウナコトハ比較的少イ、左様ナ船員ノ稼働狀況ニ相成ツテ居リマスノデアルシ、更ニ結核撲滅ノ資ニモ供スルト云フ意味合カラ、此ノ條件ヲ緩和致シマシテ、病氣ニナリマシタ前一箇年間ニ繼續シナクテモ宜イカラ、三箇月間被保險者デアレバ、更ニ引續イテ一箇年間結核性疾患ニ關スル醫療ヲ加ヘマシタリ、休メバ手當金ヲ支給スルト云フヤウナ斯ウ云フヤウニ條件ヲ著シク緩和スル改正デアリマス、ソレガ現行法デハ三十二條ノ第二項ニゴザイマス其ノ改正デアリマス、ソレカラ改正ノ第四點ハ健康保險等ニ即應致シマシテ、必要ナ規定ノ整備ヲ爲シタノデアリマシテ、之ニ關係致シマス條文ハ五十七條ノ一、即チ福祉施設ヲ法定致シマシテ、政府ハ被保險者或ハ被保險者デアリマシタ者、又ハ保險給付ヲ受クル者ノ福祉増進ノ爲ニ必要ナ施設ヲ爲シ得ルコトヲ規定致シタノデアリマス、其ノ内容ト致シマシテハ保養所或ハ健康診斷等ノ保健施設デアリマス、或ハ老廢者ニ對スル保護、輔導施設、職業指導ト云フヤウナ事業ヲ考ヘテ居リマス、第二點ハ二十八條ノ改正デアリマス、療養ノ給付ノ範圍ヲ明ニシタ二十八條ノ改正デゴザイマス、是ハ健康保險法ト同様ニ法律ヲ以テ、療養給付ノ内容ヲ明ニ致シ、整備致シタノデゴザイマス、ソレカラ次ハ二十八條ノ三、ソレカラ二十八條ノ四、二十八條ノ五、二十八條ノ六、此ノ四箇條ノ改正ハ保健醫タルコト、即チ船員保險ノ醫療ヲ擔當スル醫者、

保健醫タルコトノ強制、竝ニ保健醫ガ診療ヲ爲ス場合ノ擔當事項或ハ診療ヲ爲シタ場合ノ報酬ノ公定價ノ規定デアリマシテ、何レモ曩ノ通常議會ノ御協賛ヲ得マシテ、既ニ公布ニナツテ居リマス、健康保健ト全ク同一ノ制度デアリマシテ、醫療組織ノ整備ニ關スル規定デゴザイマス、ソレカラ次ハ九條ノ二ノ改正デアリマス、是ハ行政官廳ガ必要ガアリト認ムルトキハ、被保險者ノ異動及ビ報酬竝ニ保險給付ノ決定ニ關シマシテ、當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務スル場所ニ就イテ、關係者ニ對シ質問ヲナシ、又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲナシタルコトガ出來ル規定デアリマス、之モ健康保險法ト歩調ヲ合シタ規定デアリマシテ、今回新シク加ヘラレマシタノハ、從來船員保險ノ事務ハ中央殆下執ツテ居リマシテ、地方ノ事務ハ管海官廳ニ執ツテ戴イテ居ツタノデアリマスガ、事務ノ簡素化ノ關係上、中央執ツテ居リマシタ事務ヲ地方廳ニ移管致シマシタノデ、サウナリマスト健康保險ト同様ニ此ノ九條ノ二ノ規定ガ必要ニ相成リマスノデ、今回健康保險ト同様ニ其ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、ソレカラ次ハ九條ノ三ト、之ニ罰則ニ關係致シマシテ六十八條ノ關係デゴザイマス、是ガ、行政官廳ハ保險給付ニ關シ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リマシテ當該官吏ヲシテ診療録其ノ他ノ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトガ出來ル、之モ健康保險ト同一歩調ニ整備ヲ致シタノデアリマス、船舶所有者ノ扶助ノ義務ヲ保險ニ入レマシタノデ、療養ノ給付ガ可成リ廣範圍ニナツテ參ッテ、其ノ點ニ付キマシテハ健康保險ト同様デアリマスノデ、健康保險ト同様ノ規定ヲ此處

ニ設ケタノデアリマス、其ノ次ハ五十三條第二項ノ改正デアリマス、他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ療養費ノ支給又ハ療養アリタルトキニハ其ノ限度ニ於テ療養ヲシナイト云フ規定、之モ亦健康保險ト同様ニ整備シタノデアリマシテ、療養ノ範圍ガ非常ニ擴マリマシタ關係上、健康保險ト同様ニ致シタノデアリマス、ソレカラ今一ツハ五十二條ノ改正デゴザイマスガ、是ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ鬪争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因ツテ故意ニ傷病ヲ發シタト云フ場合ニ於ケル制裁規定デゴザイマシテ、此處ニ加ツタモノハ、療養ノ給付ノ全部デアリマスガ、之モ健康保險法ト同様ニ整備シタ關係デアリマス、即チ新ニ船舶所有者ノ療養ノ義務ガ此方ニ入リマシタノデ、其ノ療養ニ關スル制裁規定ヲ此處ニ健康保險ト同様ニ設ケタノデアリマス、以上デ大體其ノ各關係條文ヲ第四項ニ分ケマシテ、其ノ意味ヲ御話申上ゲタノデアリマスガ、尙殘リマシタ第二十八條ノ第二ノ改正ハ、是ハ現在勅令ニアリマスモノヲ第二十八條以下數條ノ條文ノ關係上此處へ整備サレテ上ガツテ來タト云フニ過ギマセヌノデ、内容的ニハ現在ノ勅令ト同様デアリマシテ、「勅令ヲ以テ定ムル期間」ト申シマスノハ、大體十日間ヲ定メ、是ハ現在ト同様ノ方針デ居リマス、ソレカラ第三十一條中ノ改正、「診療所」ノ上ニ「病院又ハ」ヲ加ヘマシタノハ、他ノ法令トノ關係上字句ノ整備ニ過ギナイノデアリマス、ソレカラ第五十三條第三項中ノ改正、第八節ノ前ノ處ニアリマスガ、同條第三項中「前項ニ掲グル者」ノ下ニ「シテ病院又ハ診療所ニ收容セラレタルモノ」ヲ加フト書イテアリマスノハ、此ノ

改正モ矢張り字句ノ整備ニ過ギナイノデアリマス、ソレカラ附則ノ四項ニ第一條中「保險給付費」下ニ「福祉施設費」ヲ加フトアリマス、此ノ船員保險特別會計法中ノ改正ガ此處ニ載ツテ居リマスノハ、福祉ニ關スル規定ヲ別ニ設ケマシタ關係上、特別會計法ニモ福祉施設費ト云フモノヲ加ヘテ整理シタ譯デアリマス、ソレカラ最後ノ「昭和十五年法律第十四號中左ノ通り改正ス」トアリマスノハ、其ノ改正ノ内容ハ、結局第五十八條ノ改正ニ即應スルモノデアリマシテ第十二條ノ二ノ規定ニ依ル經費、即チ危險區域ヲ航行スル場合ニ於ケル三分ノ一ノ加算ノ經費ハ國庫ガ負擔スルコトニナツテ居リマスノデ、其ノ國庫ノ負擔シタ部分ヲ除イテノコトニナリマスカラ、是モ其ノ關係上當然ノ字句ノ整理デアリマス、以上ヲ以テマシテ各條文ノ改正ノ四點ニ分ケテ其ノ大體ノ御説明ヲ終ツタ次第デアリマス。

○委員長(男爵高木喜寬君) 船員保險法中改正法律案ノ御説明ガ終リマシタ、次ニ軍事扶助法中改正法律案ノ御説明ヲ願ヒマス。

○政府委員(高辻武邦君) 軍事扶助法中改正法律案ノ内容ニ關シマシテ私カラ御説明申上ゲマス、軍事扶助法ヲ改正致シタイト思ヒマス點ハ三點ニ互ツテ居ルノデアリマスガ、此ノ三點ニ關シマシテ順次御説明申上ゲタイト思ヒマスガ、軍事扶助法ハ、御承知ノ通り扶助ヲ致シマス對象ハ傷病兵、ソレカラ其ノ傷病兵ノ家族若クハ其ノ傷病兵ガ死歿致シマシタ際ノ遺族、是ガ軍事扶助法ノ對象デアリマス、更ニ又傷病兵デナク、現ニ服役致シテ居リマス處ノ下士官兵ノ家族及其ノ下士官兵ガ死歿致シマシタ際ノ遺族、是ガ軍事扶助法ニ依ツテ扶助ヲ受

ケル對象ニ相成ツテ居ルノデアリマス、ソレデ今申上ゲマシタ傷病兵デアリマスガ、其ノ傷病兵ト申シマスノハ、本法ノ第二條ニ於キマシテ傷病兵ノ範圍ヲ定メテ居ルノデアリマス、第二條ニハ「本法ニ於テ傷病兵ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ」ト云フ風ニ現行法ガ規定ヲシテ居リマシテ、此ノ第二條ノ内容ガ第一號ト第二號ニ分カレテ居ルノデアリマス、第一號ハ、鬪争若クハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ、若クハ疾病ニ罹リマシテ、之ガ爲ニ一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレタ場合ニ之ヲ傷病兵ト致スノデアリマス、ソレカラ次ハ第二號デアリマスガ、此ノ第二號ニ依リマスト云フト、鬪争若クハ公務ノ爲傷病ニ罹ル場合デナクシテ、通常ノ現役ニ服役致シテ居リマス際、若クハ應召中ノ期間ニ於キマシテ、本人自身ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ルコトナクシテ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リマシタ際ニハ、而シテ其ノ者ガ一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレマシタ場合ニ於キマシテハ、是亦傷病兵ト致シマシテ本法ニ依ツテ扶助ヲ受ケルコトニナツテ居ルノデアリマス、只今申上ゲマシタ通り、現行法ノ第一號、第二號何レモ一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレルト云フ行政上ノ處分ガ扶助ヲ受ケル資格ノ一ツノ條件ニ相成ツテ居ル次第デアリマス、然ルニ先般兵役法ノ施行令及身體檢査規則ガ改正ニナリマシテ、御承知ノヤウニ兵員ノ要員ト云フモノガ非常ニ増大致シテ參リマシタ爲ニ、右申上ゲマシタヤウニ兵役法施行令及身體檢査規則ガ改正ニナリマシテ、從來ヨリモ合格者ノ範圍ガ著シク増大ヲ致シテ居ル際デモアリマスシ、又現役ニ編入セラ

ノデアリマス、即チ言ヒ換ヘテ申上ゲマス
 ルト、些少ナ身體的ノ故障ガアリマシテモ、
 ソレハ合格者トシテ兵役ニ服セシムルト云
 フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、
 ソコデ之ニ伴ヒマシテ必然ノ結果ト致シマ
 シテ、從來戰鬪若クハ公務ニ因リ又ハ入營
 中、應召中、本人ノ故意又ハ重大ナル過失
 ニ因ルニ非ズシテ傷疾疾病ヲ受ケマシタ場
 合ニ、其ノ傷疾疾病ガ比較的輕微ナル故障
 デアリマシタル場合ニハ、從來ノ一種以上
 ノ兵役免除ト云フ行政處分ニ依ラズシテ、
 本人ハ從來ノ一種ノ儘デ退營ナリ若クハ召
 集解除ニ相成リ、若クハ今申上ゲマシタヤ
 ウニ一種以上ノ兵役免除ト云フ行政處分ニ
 依ラズシテ、單ニ現役滿期ト云フコトデ退
 營ニナルト云フヤウナ取扱ニナツテ參ッテ、
 居ルノデアリマス、ソコデ現行法ノ儘デ進
 ンデ參リマス、先程申上ゲマシタヤウニ、
 一種以上ノ兵役免除ト云フコトガ傷病兵ノ
 資格條件ニ相成ツテ居ルノデアリマス爲ニ、
 事實上扶助ヲ受ケナケレバナラヌモノガ扶
 助ノ範圍カラ漏レル關係ニ相成ツテ來テ居
 ル譯デアリマス、ソコデ今回此ノ點ヲ改正
 致シマシテ、從來ノ第二條第一號、第二號
 ニ更ニ附加ヘマシテ新クニ第三號ヲ設ケマ
 シテ、一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレルト云フ
 ヤウナ行政上ノ處分ヲ受ケナイモノデアリ
 マシテモ、矢張り傷疾疾病ノ程度デアリマ
 シテ、一定ノ身體的ニ故障ヲシテ居リマシ
 タ場合ニハ之ヲ傷病兵トシテ扶助ヲシテ參
 ルコトガ妥當ト考ヘラレルノデアリマス、
 ソコデ第三號ニ加ヘマスル條文ハ、「前二號
 ニ掲グル者ヲ除クノ外退營シ又ハ召集解除
 セラレタル陸海軍下士官兵ニシテ戰鬪者ハ
 公務ノ爲又ハ故意若ハ重大ナル過失ニ因ル

ニ非ズシテ現役中、此ノ現役中ト申シマス
 ト、未入營期間及歸休期間ヲ除クノデゴザ
 イマスガ、其ノ「現役中若ハ應召中ニ傷疾ヲ
 受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法第六十六條第一
 項ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル傷病ノ程
 度以上ノ貽後障礙ヲ有スルモノ」ト云フ規定
 ヲ設ケマシテ、只今御説明申上ゲマシタヤ
 ウナ、事實上扶助ヲ必要トスル者ヲ扶助ヲ
 シテ參リタイト存ズルノデアリマス、コ、
 ニ附加ヘマシタ第三號ノ條文ノ中デ、「恩給
 法第六十六條第一項ノ規定ニ依リ勅令ヲ以
 テ定ムル傷病ノ程度」ト申シマス、云フト、
 此ノ傷疾疾病ノ程度ハ現在ノ恩給法ノ規定
 ニ依リマス、云フト、三階段ニ分レテ居リマ
 シテ、最モ重症ノ程度ハ項症デゴザイマス、
 次ハ欸症デゴザイマシテ、比較的輕易ナル
 傷疾疾病ハ目症ト唱ヘテ居ルノデアリマ
 ス、ソコデコ、ニ書イテアリマス、「第六十六
 條第一項ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル傷
 病ノ程度」ト申シマス、ハ、只今申上ゲマシ
 タ目症ノ程度ヲ指スモノデゴザイマシテ、
 此ノ程度以上ノ傷病デアリマシテ、「貽後障
 礙ヲ有スルモノ」、貽後障礙ト云フ言葉ハ、
 御承知ノ如ク、是ハ其ノ症狀ノ狀態ガ概ネ
 固定ヲ致シテ居リマシテ、其ノ結果現ニ唯
 身體的ノ故障ヲ殘シテ居リマス、其ノ場合
 ト、ソレカラ現ニ症狀ガ繼續中デアリマシ
 テモ、事實上現在身體的ノ故障ヲ持ッテ居リマ
 ス場合ニ之ヲ貽後障礙ト云フ風ニ名付ケテ
 居ルノデアリマスガ、サウ云フ身體的ノ障
 礙ヲ有スル者ニ對シテ軍事扶助法ニ依ッテ
 扶助ヲ致シテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居ル
 ノデアリマシテ、是ガ改正ノ第一點デゴザ
 イマス、次ハ改正ノ第二點デゴザイマス
 ルガ、第二點ハ、現行法ニ依リマス、云

フト、兵ニ付キマシテハ、其ノ兵ガ現役
 中ノ者デアリマセウトモ、應召中ノ者デ
 アリマセウトモ、ソレ等ノ家族ハ本法ニ
 依ッテ矢張り扶助ノ對象ニ相成ツテ居ルノデ
 アリマスルガ、下士官ニ付キマシテハ、其ノ
 下士官ガ應召中デアリマスル場合ニ於テノ
 ミ其ノ家族ヲ本法ニ依ッテ扶助ヲ致スコ
 トニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、現役ノ
 下士官ニ付キマシテハ、其ノ家族ハ本法ノ
 扶助ノ範圍カラ除外ヲ致シテ居ルノデアリ
 マス、然ルニ近來ノ狀況ニ依リマス、云フ
 ト、下士官ノ要員ト云フモノガ非常ニ増大
 ヲ致シテ參ッテ居リマスル爲ニ、現在ニ於
 キマシテハ本人ノ意思ニ依ラズシテ下士官
 ニ採用ニ相成ル途モ開カレテ居リマスル
 シ、假令又本人ノ意思ニ依ツテ下士官ニ相
 成ル場合ニ於キマシテモソレハ矢張り兵役
 義務ノ服務ノ延長ト認メナケレバナラヌト
 考ヘラル、ノデアリマシテ、現行法ノ如ク、
 現役ノ下士官ト應召ノ下士官ヲ區別致シマ
 シテ、本人ノ自由意思ニ依ルモノトシテ現
 役ノ下士官ノ家族ヲ本法ノ適用カラ除外ヲ
 致シマスコトハ、應召中ノ下士官ノ家族ト
 ノ權衡カラ考ヘマシテ當ヲ失スルト考ヘラ
 ル、ノデアリマス、ソレデアリマスカラシ
 テ、今回本法ヲ改正致シマシテ、下士官ノ
 家族ニ付キマシテハ、其ノ下士官ガ現役ノ
 者デアリマセウトモ、又應召中ノ者デアリ
 マセウトモ、等シク其ノ家族ヲ本法ノ適用
 ノ範圍ニ致シテ參リタイ、斯様ニ考ヘタ次
 第デアリマス、之ニ關シマシテ、此ノ第三
 條、第四條、第五條、是等ノ條文ガ關係ヲ
 致スノデゴザイマスルガ、改正條文ハ稍、
 複雑致シテ居リマスルケレドモ、此ノ三箇
 條ノ改正點ハ、只今御説明申上ゲマシタ第

一點及第二點ニ關聯致シマシテ字句ヲ改正
 致スコトノ案ニ相成ツテ居ル譯デゴザイマ
 ス、第三條ノ條文ハ家族ノ範圍ヲ、規定ヲ
 致シテ居ルデアリマスルガ、此ノ家族ノ範
 圍ニ關スル規定ノ中デ陸海軍現役兵、應召
 中ノ陸海軍下士官兵、サウ云フ者ノ配偶者
 又ハ子デアリマス、トカ、或ハサウ云フ者ニ
 依ッテ扶養ヲ受クルベキ者デゴザイマス、ト
 カ、或ハサウ云フ者ノ同一ノ世帯、一定ノ
 時期ニ於テ同一世帯ニアツテ、現ニ引續キ
 其ノ世帯ニアル者ト云フヤウナモノヲ家族
 ト致シテ居ルノデゴザイマスガ、此ノ家族
 ノ範圍ヲ定メテ居リマスル條文ニ於キマシテ、
 「陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士官兵」
 ト云フ字句ヲ「現役若ハ應召中ノ陸海軍下
 士官兵」ト改正致シマス、ノガ、第一點ノ改
 正ニ伴ヒマスル當然ノ結果デゴザイマス、
 ソレカラ「現役兵ノ入營シタル時、下士官
 兵ノ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セ
 ラレタル時」ト云フ字句ガ同條ニ於テ使ッ
 テアリマスガ、之ヲ「下士官兵ノ入營」括
 弧致シマシテ「在郷ノ下士官兵ニシテ現役
 下士官ト爲ル場合ヲ含ム以下同ジ」括弧ヲ
 閉ジマシテ、「若ハ應召シタル時又ハ傷病兵
 タルニ至リタル時」斯様ニ改正ヲ致シタイ
 ト考ヘルノデアリマスガ、是ハ矢張り先刻
 説明申上ゲマシタ第一點ニ關聯致シテ居ル
 ノデゴザイマシテ、斯様ニ字句ヲ修正ヲ致
 ス譯デアリマス、「ソレカラ現役兵ノ入營シ
 タル時、下士官兵ノ應召シタル時又ハ傷病
 兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時」ト云フ字句ヲ
 「下士官兵ノ入營若ハ應召シタル時又ハ傷
 病兵ノ傷病兵タルニ至リタル時」ト斯様ニ
 改正ヲ致シタイト存ズルノデアリマスガ、
 是亦先刻申上ゲマシタ第一點第二點ニ關聯

致シマシテ、字句ノ訂正ヲ致ス譯デアリマス、尙第三條ノ第二項ニ於キマシテ「陸海軍現役兵」トアリマスルモノヲ「陸海軍下士官兵」ソレカラ「未入營現役兵及歸休兵」トアリマスモノヲ「未入營兵及歸休下士官兵」ト訂正致シマスノモ、是亦第一點第二點ノ改正ニ伴フ字句ノ修正デゴザイマスガ但シ最後ノ所ニアリマス「歸休下士官兵」ト云フ字句デゴザイマスガ、從來ハ「歸休兵」ト相成ッテ居リマシタノヲ「歸休下士官兵」ト致シマスノハ、海軍ノ制度ニ於キマシテ、歸休ノ下士官ガ現在ノ制度デゴザイマスノデ、之ヲ矢張り字句ノ修正ノ中ニ入レテ居ル譯デゴザイマス、ソレカラ次ハ第四條デゴザイマスガ、第四條ニ於キマシテモ「傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時」ト云フ字句ガアリマスガ「傷病兵ノ傷病兵タルニ至リタル時」ト訂正致シマスノハ、第一點ノ改正ニ伴フ字句ノ修正デアリマス、第五條ニ於キマシテ、「現役兵ノ入營、下士官兵ノ應召」ト云フ字句ガ現行法ニ使ッテゴザイマスガ、之ヲ「下士官兵ノ入營應召」ト云フ風ニ改メマスノモ、矢張り是ハ先刻御説明申上ゲマシタ改正ニ伴フ字句ノ修正デゴザイマス、以上ガ第一點及第二點ノ改正點ト、竝ニシテ伴ヒマス條文ノ修正ノ御説明ヲ申上ゲタ譯デアリマス、次ハ第三點デゴザイマス、第三點ノ改正ハ、此ノ現在ノ法律ノ第十三條ノ二ニ規定ガゴザイマスル、十三條ノ二ノ規定ニ依リマス、下士官兵ガ退營若クハ召集解除ヲ致シマシテ歸タ際ニ於キマシテ、若シ必要ガアリマスルナラバ、二十日以内ノ時期ヲ限ッテ從來通りノ扶助ヲ繼續シテモ宜シイト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、然ルニ最近ノ情勢ニ依リマ

スト、歸ッテ參リマシテカラ元ノ生業ニ復歸致シマストカ、或ハ新ナル業務ヲ求メテ就職ヲ致シマストカ、サウ云フヤウナコトニ於キマシテモナカク二十日以内ト云フ期間デハ思フヤウニナラナイト云フ状態ニ相成ッテ居リマスシ、戰爭ノ區域ガ非常ニ擴大致シテ居リマスル爲ニ、戰地ニ於キマシテ色々ノ疾患ニ罹リマシテ、ソレガ治癒致シマシテ歸リマシテモ、ドウモ比較的短カイ期間ニ生業ヲ得ルト云フコトハ、身體ノ關係カラ申シマシテモ無理デゴザイマスシ、假ニ是ガ就職スルニ致シマシテモ又病氣ガ再發スル虞ガアリマスノデ、現在ノ二十日以内ト云フコトハ最近ノ情勢カラ見ルト適當デハナイノデハナイカ、寧ろ是ハ三箇月以内ト云フ風ニ改メルコトガ適當デハナイカト考ヘマシテ、二十日以内ノ扶助ノ繼續期間ヲ三箇月以内ト云フコトニ延長致シタイト考ヘタ譯デアリマス、現在ノ第十三條ノ二ノ中デ「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ト云フ字句ヲ使ッテ居ル部分ガアリマスガ、是ノ「下士官兵ノ退營又ハ召集解除」ト云フ風ニ字句ノ改正ハ、先刻申上ゲマシタ改正點ニ關聯スルモノデアリマス、次ニ二十日以内ト云フコトヲ三箇月以内ト致シマシタノガ只今御説明申上ゲマシタ第三點ノ改正點デゴザイマス、以上ヲ以テマシテ改正條文ノ説明ヲ終ッテ次デゴザイマス

○委員長(男爵高木喜寬君) 委員ノ方々ニ申上ゲマス、三法案ニ對スル政府ノ御説明ハ終リマシタノデ、今日ハ此ノ程度ニ於テ散會致シタイト思ヒマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵高木喜寬君) 尙次回ハ明日午前十時ニ致シタイト思ヒマス、尙質疑ノ經過ニ依リマシテハ、或ハ午後迄續行スルカモ知レマセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、是ニテ散會致シマス

午後零時四分散會
出席者左ノ如シ

委員長 男爵高木 喜寬君
副委員長 長 世吉君
委員

公爵桂 廣太郎君
侯爵東郷 彪君
伯爵酒井 忠正君
子爵實吉 純郎君
子男入江 爲常君
男爵高崎 弓彦君
長谷川 尠夫君
男爵加藤 成之君
中川 望君
堀 啓次郎君
松井貞太郎君
岩田 三史君
渡邊 覺造君

政府委員
厚生次官 武井 群嗣君
厚生省衛生局長 灘尾 弘吉君
厚生省保險局長 平井 章君
軍事保護院副總裁 藤井 孝夫君
軍事保護院援護局長 高辻 武邦君
厚生書記官 木村忠二郎君
同 菊池 武夫君

昭和十八年二月三日印刷

昭和十八年二月四日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局